

第1回アジア・オセアニア小児神経外科学会教育コース報告

北里大学病院脳神経外科 師田信人

5月30日から6月1日まで、インドの Mumbai で第1回アジア・オセアニア小児神経外科学会(Asian-Australasian Society for Pediatric Neurosurgery: AASPN)教育コースの1st round が開催され参加してきました。参加報告と合わせて、AASPN Educational Course について簡潔に説明したいと思います。

AASPN 教育コース設立までの歴史

AASPN 創設以前のアジア・オセアニアにおける小児神経外科の教育セミナーは、ヨーロッパ及び国際小児神経外科学会の支援を受けた AAACPN(The Asian-Australasian Advanced Course of Pediatric Neurosurgery)として日本も含めアジア各国で開催されてきました。AASPN が2013年に創設され活動実績を上げてきたことを受け、2022年に Singapore で開催された ISPN 総会時の AASPN 理事会で独自に教育コースを運営する方針が打ち出されました。これを受けて昨年末に横浜で開催された AASPN 2023 の時に理事会で新名称も含めて承認、今回の開催に繋がったものです。担当は AASPN 教育委員会になります。委員長は Charterjee 先生(インド)と Baticulon 先生(フィリピン)です。今回の責任者は Mumbai の Sankhla 先生でしたが、AASPN 2023 後に体調を崩し、だいぶ取り組みが遅れました。最終的には Baticulon 先生が4月から大車輪で準備を進め、記念すべき第1回の開催にこぎつけた、という裏事情があります。僕は教育委員会とは直接関係ないのですが、AASPN 学術委員会の委員長を務めている関係で今回講師として参加しました。

第1回 AASPN 教育コース 1st round @ Mumbai

この1st round では、水頭症・血管障害・頭蓋骨縫合早期癒合症・頭蓋内先天異常・外傷・頭蓋頸椎移行部病変及び二分脊椎関連病変が対象疾患でした。脳・脊髄腫瘍、てんかん・機能的疾患に対しては今後の round での対象となります。プログラムを添付しますので、ご参照ください。開催した場所は Mumbai 東方の MRR 小児病院で、ここの脳神経外科部長の Andar 先生が現地開催責任者として便宜を図って下さいました。

講師は全部で17名、うちインド以外からは台湾3名、オーストラリア2名、フィリピン・マレーシア・日本から各1名です。AASPN 新会長の Maixner 先生、台湾の Kuo 先生、Chen 先生はじめほとんどが ISPN あるいは AASPN2023 で見知ったメンバーでした。フィリピンの Baticulon 先生、マレーシアの Ganesan 先生には AASPN 2023 でも faculty を務めていただいたのですが、今回はじっくり話し合い親交を深めることができました。

参加者は約 20 名、インド以外からは台湾・インドネシア・マレーシア・タイ・フィリピンからそれぞれ 2~4 名ほど、そしてカンボジアからも 2 名の参加がありました。こちらでも半数近くは AASPN 2023 にも参加してくれていたメンバーで、懐かしいのとまたその向学心の高さに圧倒された次第です。

講義はプログラムにみるとおり一講義あたり 10 分と短いので、いかに要領よくかつわかりやすくまとめて教育コースにふさわしい内容にするか、がポイントになります。質問も



講義中に自由に発言できるので、丁々発止のやり取りになったりで盛り上がりました。自分の担当は講義が 5 つ（胎児水頭症、破裂くも膜嚢胞、脊髄係留症候群、脊髄脂肪腫、キアリ 0 & 1.5 型）、それにキアリ 1 型の case discussion でした。前述のとおりプログラム最終決定から開催までの期間が短く、1 ヶ月余り

でこれだけ作成するのは結構なストレスでした。Case discussion は受講生に質疑応答する形式をもとに、時に治療方針について挙手で多数決を取るなどして単なる一方通行にならないように配慮しましたが、途中で他の faculty の先生から茶々が入ったりで、賑やかなものになりました。今回感じたことの一つに、アジア諸国でも経済力の進展と共に診断能力も高まり、血管障害ではモヤモヤ病への関心がこれまで以上に強くなっています。ただ、関心は高まって理解自体はまだまだというところで、出てきた画像はどう見てもモヤモヤとは異なる症例でした。日本のモヤモヤ病ガイドラインは英文化され Neurologia medico-chirurgica にも掲載されていますが十分認識されていないと感じます。来年インドネシアで開催される AASPN 2025 では、この辺りをぜひ学術委員会主導で取り組んでいきたいと考えているところです。

今後の予定

第 1 回 AASPN 教育コースの 2nd round は前述した AASPN 2025 と合わせて開催されます。3rd round はまた未定ですが、2026 年 5 月にマニラで開催される Asian-Australasian Congress of Neurosurgery の直前に Baticulon 先生が主催される可能性が高そうです。今回は事前の広報が不十分だったり、諸般の事情で日本からの参加は僕 1 人でした。今後、

AASPN 教育コースを修了することは AASPN 正式会員になるための必要条件になります。途中からの参加、或いは間を空けての参加でも一定期間内に 3 つの round を修了すれば資格獲得ができます。AASPN の活動に参加し、アジア・オセアニアでの JSPN 会員の活躍の場を広げるためにも、次回以降、ぜひ大勢の JSPN 会員の皆さんの参加をお願いしたいと思います。それはまた AASPN そして JSPN の活性化にもつながると信じています。